

産地パワーアップ事業の取組事例

(北海道)

取組の概要

取組の概要 : 需要に対応した大豆の生産拡大と高品質化等による販売額の増加
計画作成主体 : 音更町農業再生協議会
対象品目 : 大豆 (産地面積: 2,101ha)
主な取組主体 : 音更町農業協同組合、木野農業協同組合 他
成果目標 : 販売額の10%以上の増加
助成金の活用 : 整備事業 (穀類乾燥調製貯蔵施設)
状況 : 生産支援事業 (豆用コンバイン等)

ポイント

経営規模の拡大や需要の高まりを背景に作付・生産が拡大している大豆について、乾燥調製貯蔵施設を新たに整備し、調製作業の省力化と併せて実需者ニーズに対応した調製・貯蔵能力の高度化による品質の向上を図るとともに、リース導入による省力的な収穫受託体制の確立、単収向上及び販売強化にも取り組み、販売額の増加を図る。

地区の概要



産地の現状と目標

現状:H27年度

作付面積 : 2,001ha
単収 : 278kg/10a
販売額 : 33,488円/10a

目標:H30年度

作付面積 : 2,101ha
単収 : 296kg/10a
販売額 : 44,400円/10a



推進体制

地域の関係者 (音更町、音更町農協、木野農協、農業関係者等) が一体となり、事業を推進。

地域における独自の取組

主な取組

生協Gや契約販売先との関係強化や、観光業等の地元資源とのコラボレーションによる「おとふけ産ブランド」の確立。

産地指定ユーザーの拡大や契約販売率の向上など、マーケットインを販売強化の重点に置く体制構築を目指す。

ダイズシストセンチュウ抵抗性品種導入による生産性の向上。

事業効果

乾燥調製貯蔵施設の整備により、調製作業の遅延解消、人件費等コスト節減及び調製・貯蔵能力の改善による品質低下抑制等により実需者ニーズに対応した品質向上を図る。

作付拡大に対応した収穫機リース導入により、収穫受託体制を整備する。

